

「豊かな学力を育む指導のあり方」

～国語力の向上をめざした授業実践と言語環境づくりを通して～

I 研究の内容

1 研究の具体的内容と方法

- (1) 児童の基礎学力の実態把握と分析・日常実践の交流
- (2) ねらいと評価を明確にした一人一授業実践
- (3) 読書活動の推進を図る具体的方法と研修会
- (4) 言語環境を整えるための具体的方法と研修会
- (5) 教育課程の検討・作成
- (6) 外国語活動についての研修会

2 研究実践

(1) 理論研究

6月「国語力の向上をめざした授業実践及び言語環境づくりについて」

講師：義務教育課（小林 大指導主事）

(2) 授業研究

【読む】部会

第4学年 教材名「一つの花」

授業者 古屋 宏記教諭

目指す言語能力 場面の移り変わりに注意しながら，登場人物の性格や気持ちの変化，情景などについて，叙述をもとに想像して読む力

・作品を批判的に読み，作品の終わり方について自分なりの意見を持つことを目標とした授業であった。子どもたちは，前時までの学習で作品を正確に読み取ることができており，それをもとに自分なりの終わりの場面を考えることができた。また，なぜそうしたかという意見もしっかりと持つことができていた。

（指導助言：義務教育課 保坂 伸指導主事）

【話す・聞く】部会

第3年 教材名「漢字と友だち」

授業者 興石 晴美教諭

目指す言語能力 ・伝えたいことを自分の考えがわかるように筋道を立て，聞く集団の大きさを考えながら，声の大きさや速さに気を付けて話す能力

・伝えたいことは何か，考えながら聞き，自分の感想を持つ能力
・自ら調べたり考えたりした漢字を，「漢字おもしろ報告会」を行い，班の友だちに知らせるとい授業であった。子どもたちは，それぞれ工夫して発表を行い，聞

いている方も真剣に聞き、相手のことを考えた感想を伝えることができていた

(指導助言：教育事務所 一之宮英文指導主事)

(3) 読書活動

- ・読書期間中に、低学年は目標読み、高学年はブックウォークに取り組んだ。
- ・スタンプラリーを、全学年4回取り組んだ。

(4) 言語環境づくり

- ・基本の話形、聞き方、声のものさしを全学級教室に掲示した。
- ・2か月に1回学級の時間を使って、詩・短歌・俳句などの暗唱検定を行った。
- ・暗唱活動に関連した言葉に関する掲示を行った。

II 成果と課題

1 成果

- ・指導主事を招聘しての理論研究をもとに、各部会の研究を深め、進めることができた。
- ・各部会で、十分に検討した授業研究が行えた。
- ・研究のための研究ではなく、実践につながる研究であった。
- ・掲示物や暗唱活動、読書活動など、大変なことはあったが、成果が見られた。
- ・全校体制の研究の成果の大きさを感じた。これらの取組を本校の特色として、今後も根付かせていきたい。

2 課題

- ・暗唱活動については、とても素晴らしい取り組みではあるが、なかなか時間が確保できず、取り組みが十分でない面も見られた。

III 成果物

- 1 第1学年 国語科学習指導案 教材名：みんなにしらせたいこと
- 2 第2学年 国語科学習指導案 教材名：サンゴの海の生き物たち
- 3 第3学年 国語科学習指導案 教材名：漢字と友だち
- 4 第4学年 国語科学習指導案 教材名：一つの花
- 5 第5学年 国語科学習指導案 教材名：わらぐつの中の神様
- 6 第6学年 国語科学習指導案 教材名：学級討論会をしよう
- 7 子どもにすすめるブックリスト（ステップ1～5）
- 8 身に付けさせたい学習規律（話の聞き方・話し方・声のものさし）
- 9 「声に出して読もう」（暗唱活動集）低・中・高学年用

(研究主任 新海小緒里)